

月例会「平塚宿」 間の宿“茅ヶ崎”から“平塚宿”を歩く

12月8日(土)の第一例会、13日(木)の第二例会とも好天気に恵まれ、合計で153名という多くの参加者で、間の宿“茅ヶ崎”から“平塚宿”までを歩きました。
今回のテーマは、『歌舞伎で迎える 間の宿茅ヶ崎と平塚宿』です。

茅ヶ崎駅近くの厳島神社の駐車場をお借りし準備体操のあとコースの概要等をガイドし、いよいよウォークのスタートです。



茅ヶ崎は人通りに加えて自転車の多い街です。いつも建物側を1~2列で歩きます。

神奈川の東海道では、茅ヶ崎の南湖と二宮の梅沢に「間の宿」がありました。茅ヶ崎の間の宿・南湖には、茶屋本陣の松屋、脇本陣と呼ばれた江戸屋(現・重田家)がありました。



茶屋(脇本陣)・江戸屋跡



御霊神社

東海道を少し外れますが、「御霊(ごりょう)神社」を訪れました。御霊神社には、鎌倉武士の誉れ高い鎌倉権五郎景正(平景正)が祀られています。

鎌倉権五郎は、16歳で初陣した後三年の役で目を討ち抜かれながらも敵を打ち負かしたという武勇伝の持ち主です。歌舞伎の「暫(しばらく)」の主人公としても有名です。

また、この御霊神社は、建久9年(1198)相模川の怨霊事件で頼朝が死亡してから源義経の怨霊を鎮めるため村人達が義経の霊を合祀したと伝えられています。平家と源氏が合祀されている珍しい神社です。

御霊神社の隣の「西運寺」には、大正7年に建立された南湖力丸の供養塔があります。



南湖力丸の供養塔



白波五人男「稲瀬川勢揃いの場」
(中央が南郷力丸)

力丸は、本名を南宮行力丸といい南湖の船持ちの体でしたが、江戸に出て悪事を繰り返して鈴ヶ森刑場で打ち首となりました。行力丸は、歌舞伎「白波五人男」の南郷力丸のモデルと云われています。

西運寺から東海道に戻りしばらく行くと、広重の浮世絵にも描かれている「南湖の左富士の碑」があります。



南湖左富士の碑



富士をバックに記念撮影



見事な富士がお出迎

東海道を京に上る時に常に右手に見えている富士山が、左手に見える珍しい場所が「南湖の左富士」です。左富士を見ることが出来る場所はもう一ヶ所、静岡県吉原宿にあります。今年のお客様は、素晴らしい左富士に出会うことが出来ました。

「南湖左富士の碑」の向かいにあるのが鶴嶺八幡宮の鳥居です。



鶴嶺八幡宮

鶴嶺八幡宮は、源頼義が東征の際、源氏の守護神である石清水八幡宮を勧請し、戦勝祈願をしたのが始まりです。前九年の役が終わった後、頼義は鎌倉由比郷に鶴岡八幡宮の前身である「元八幡」を建立し、当社はその旧社であることから「本社八幡宮」といわれました。鶴嶺八幡宮は、源氏が関東へ進出する第一歩として祀った最初の氏神社です。



鶴嶺八幡宮



鶴嶺八幡宮参道の松並木

鶴嶺八幡宮の別当寺である常光寺の住職朝恵上人が慶安2年(1649)家光から7石の朱印地の寄進を受けたのを記念して植えられた松並木が420間(約764m)続いており、昔から「八丁松並木」呼ばれています。

鶴嶺八幡宮の鳥居をくぐって直ぐ右手に「弁慶塚」があります。頼朝の落馬は、義経や行家ら一族の亡霊があらわれたことが原因と噂されたため、後年村人たちが亡霊を慰めるために義経を御霊神社に祀り、ここに弁慶の塚を建て供養しました。



弁慶塚

鶴嶺八幡宮からしばらく歩くと「相模川橋脚跡」があります。



相模川橋脚跡

大正12年(1923)の関東大震災と翌13年の大地震により、7本の橋脚が地上に露出、さらに地中から3本が発見されました。歴史学者沼田博士の鑑定によって、建久9年(1198)稲毛三郎重義が亡き妻(頼朝の妻政子の妹)のために相模川に架けた橋脚であることが考証されました。現在は、橋脚はコンクリートの筒に入れられ出現時の景観を再現した複製が設置されています。

「相模川橋脚跡」の後は、相模川(馬入川)の「馬入の渡し跡碑」に向かいます。

「馬入の渡し跡碑」は平塚宿側の土手にあります。平塚宿へ渡るには、江戸時代は船渡しでしたが、今は勿論橋を渡ります。



馬入橋を富士に向かって

「南湖の左富士」から見た富士に勝るとも劣らない素晴らしい富士に向かって馬入橋を渡りました。

幕府は大きな河川に橋をかけることを禁止し、相模川(馬入川)や多摩川(六郷川)は「渡し船」、酒匂川は「徒歩(かち)渡し」でした。

この相模川には 60 以上の渡し場がありましたが、この渡しのある流域は、馬入川と呼ばれていたことから「馬入の渡し」と呼ばれ、幕府が管理し、周辺村々の負担によって成り立っていました。船賃は、元禄の頃で一人 10 文、荷駄 22 文、乗掛荷 16 文だったようです。

明治 19 年(1886)、木橋が架けられ渡し船は廃止となりました。



馬入の渡し跡碑



広重「馬入の渡し・狂歌入」



昼食風景

馬入の渡し跡碑のある「馬入ふれあい公園」で昼食です。天気の良い日は、暖かい陽だまりで会話も弾みます。この公園には、サッカーリーグ J-1 の湘南ベルマーレの練習場もあります。



サッカー場

馬入の渡し跡のすぐ近くに「馬入の一里塚」があります



馬入の一里

江戸から 15 番目の一里塚で、左右の塚の上には榎が植えられていました。

この碑は、平成 21 年に建立されたものです。

今回のお土産は「玄齋カレーパン」を紹介しました。



明治を代表するジャーナリストの村井玄齋の「食道楽」に書かれていたカレーのレシピをヒントにして作られたのがこの玄齋カレーパンです。多くのお客様が買われていました。大好評でした。





松田たつの墓

「鏡山お初」のモデルになったといわれる、本名「松田たつ」の墓と顕彰碑です。平塚宿松田久兵衛の娘たつは、荻野山中藩大久保長門守の江戸屋敷の中臈岡本みつ女に奉公していましたが、みつ女が年寄沢野から侮辱を受け自害しました。たつは直ぐに沢野を訪ね、みつ女の小脇差で仇を討



草履打の場面

ったといわれます。

歌舞伎で上演された「加賀美山旧錦絵」は、この義女たつの話に加賀騒動を組合せ、さらに時代を鎌倉に置き換えて足利家の中臈尾上(みつ女)が局の岩藤(沢野)に草履で打たれ、悔しさのあまり自害、尾上の召使お初(たつ)が岩藤を討つという筋立てになっています。

旧東海道に戻り少し進むと平塚宿の西の門「京方見附跡」です。ここから大磯宿までは約 2.9km ですが、今回は平塚駅へ戻るコースとしています。



京方見附

京方見附の辺りから大磯方面を望むと広重の浮世絵に描かれたお椀を伏せたような高麗山(こまやま)が姿を見せています。縄手道とは田の中の真っ直ぐな長い道を云います。



広重「平塚縄手道」

平塚駅に戻る途中で「お菊塚」に寄りました。このお菊塚では、定点ガイドを行いました。



お菊塚



私が定点ガイドで

皿屋敷伝説のモデルと言われるお菊の供養塚です。

お菊は平塚宿役人真壁源右衛門の娘で、行儀見習いのため江戸の旗本青木主膳方へ奉公中、旗本青山主膳の家来が菊女を見染めましたが菊女がいうことを聞かないので、その家来が憎しみの余り家宝の皿を隠し主人に菊女が紛失したと告げたので、菊女は手打ちにされてしまいました。この事件は、後に怪談「番町皿屋敷」の素材になりました。



クールダウン

最後にクールダウンの体操をして、解散しました。お疲れ様でした。

私達ガイドは、反省会です。問題点や反省点の把握は、次回への貴重な財産です。



反省会